

# 国語ワーキンググループ及び外国語ワーキンググループ における検討について

# 国語ワーキンググループにおける検討について (平成28年2月19日現在)

## 個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)

## 思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)

## 学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)

○言葉の働き、役割に関する理解

○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け

- ・言葉の位相、書き言葉(文字)、話し言葉、敬語、方言
- ・語、語句、語彙
- ・文の成分、文の構成
- ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
- ・表現の工夫(修辞など)

など

○言葉の使い方に関する理解と使い分け

- ・話合いや話し方・発表、聞き方
- ・書き方
- ・読み方や音読・朗読

○書写に関する知識・技能

○伝統的な言語文化に関する理解

○文章の種類に関する理解

○情報活用に関する知識・技能

◆テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力  
【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】

- 情報を多角的に精査し、構造化する力
  - ・論理の吟味・構築(根拠、論拠、定義、前提等)
  - ・信頼性、妥当性の吟味
  - ・推論に基づく情報の精査・取捨選択
  - ・既有知識による内容の補足、精緻化
- 構成・表現形式を評価する力

【感性・情緒の側面】

- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
- 構成・表現形式を評価する力

【他者とのコミュニケーションの側面】

- 言葉を通じて伝え合う力
  - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
  - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
  - ・自分の考えや思いの伝達
- 構成・表現形式を評価する力

◆考えを形成、深化する力(個人または集団として)

- 情報を編集・操作する力
- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
- 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

・言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度

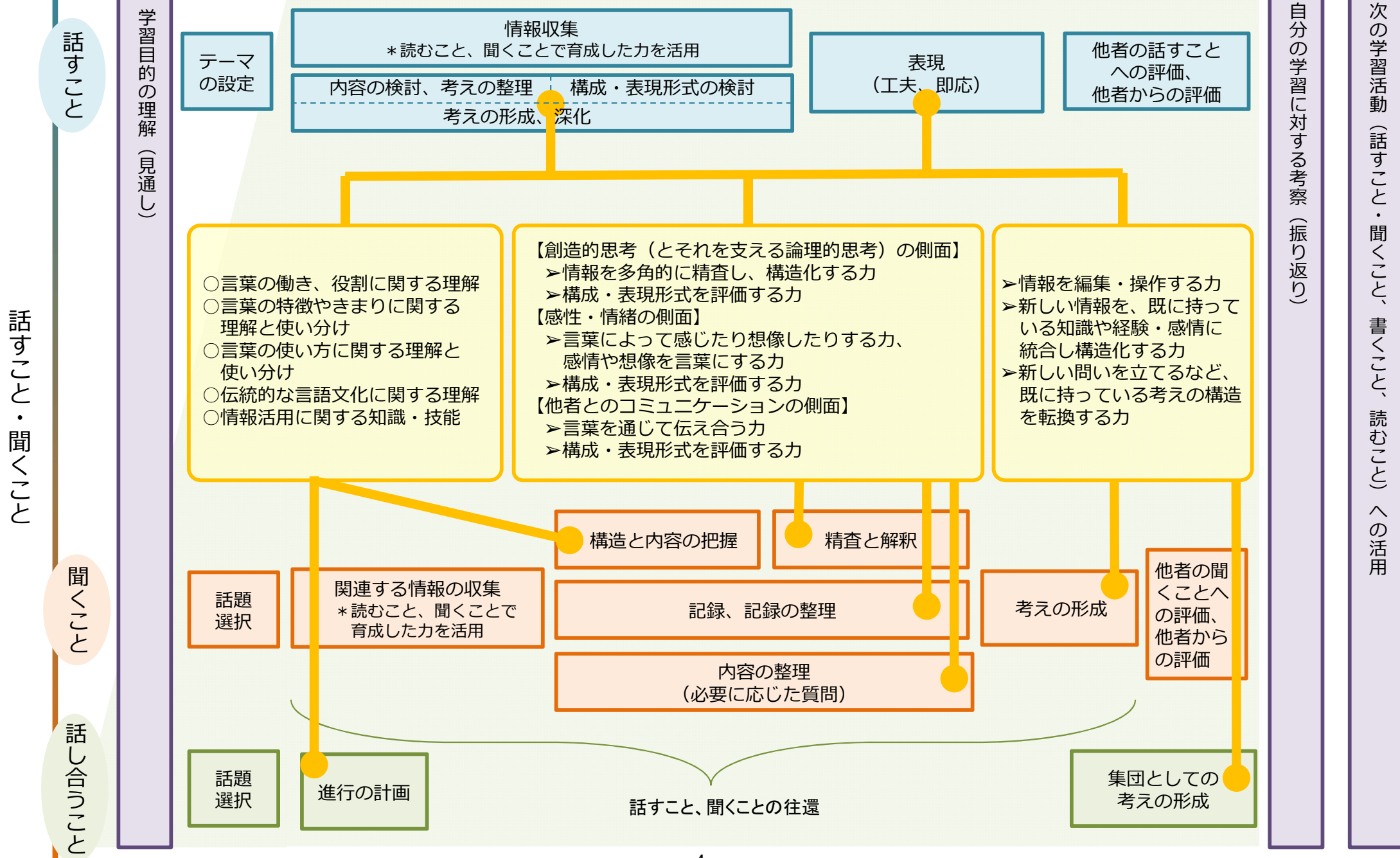
・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度

・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)

・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度

・我が国の言語文化に関心をもち、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度

・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度

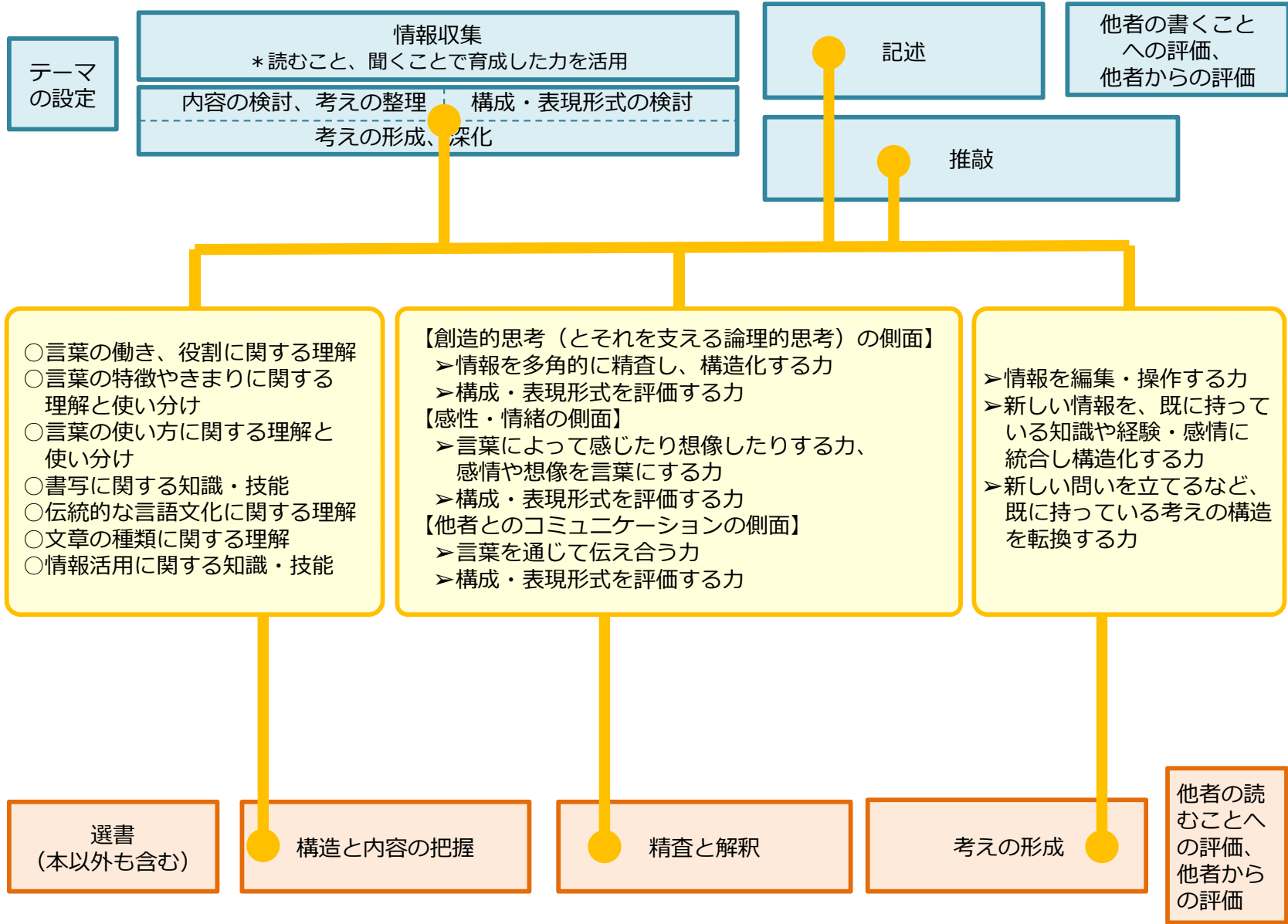


※必ずしも一方通行、順序性のある流れではない。

書くこと

読むこと

学習目的の理解（見通し）



自分の学習に対する考察（振り返り）

次の学習活動（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）への活用



## 【高等学校】

- ①言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言語文化の担い手としての意識をもち、生涯にわたり国語を尊重してその向上を図っている。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、それを通じて、社会的な視点から、自分の思いや考えを統合的・創造的に形成し深めている。
- ③生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な言葉の特徴やきまり、言葉の使い方などについて、総合的に理解し、それらを効果的に使い分けることができる。

## 【中学校】

- ①言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言語文化に対する関心をもち、国語を尊重している。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、それを通じて、自分の思いや考えを形成し深めている。
- ③社会生活に必要な言葉の特徴やきまり、漢字の読み書き、言葉の使い方などについて理解し、それらを適切に使い分けることができる。

## 【小学校】

- ①言葉がもつ力を信頼し、伝え合う喜びを味わうとともに、言葉に対する関心をもち、国語を尊重している。
- ②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせ、他者との関係性の中で、言葉で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、それを通じて、自分の思いや考えを形成している。
- ③日常生活に必要な言葉の特徴やきまり、文字の読み書き、言葉の使い方などについて理解し、それらを使い分けることができる。

## 【幼児教育】

(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- ・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
- ・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。
- ・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。
- ・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。





# 国語科で育成すべき資質・能力（各学校段階別）（検討のたたき台）

※文字色：小学校、中学校、高等学校

## 個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）

- 言葉の働き、役割に関する理解
  - \* 言葉の働き、役割(例えば外国語と比較して)
  - \* 言葉の働き、役割(主に効果的な使い分け)
- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
  - ・言葉の位相、書き言葉、話し言葉、敬語、方言
    - \* 平仮名、片仮名、ローマ字、学年別漢字配当表
    - \* 日常生活で使われる敬語、方言と共通語の違い
    - \* 学年別漢字配当表、大体の常用漢字
    - \* 時間の経過による言葉の変化
    - \* 常用漢字
  - ・語、語句、語彙
    - \* 主に具体的な事象を表す語句
    - \* 主に抽象的な概念を表す語句
    - \* 単語の類別と働き
    - \* 社会性・専門性の高い語句、思考・思索の深化につながる語句
    - \* 類義語、対義語等の語彙の体系的理解
  - ・文の成分、文の構成
    - \* 主語・述語、修飾語・被修飾語の関係
    - \* 基本的な文の構成
    - \* 多様な文の構成、文の成分の順序や照応
  - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
    - \* 指示語、基本的な接続語(順接、逆接など)
    - \* 文章の基本的な構成や展開
    - \* 接続語等を要しない文と文との関係
    - \* 多様な文章の種類と典型的な構成や展開
    - \* 文章の独創的な構成や展開
  - ・表現の工夫(修辞など)
    - \* 擬人法、比喩、反復など
    - \* 書き出しや結びの工夫など
    - \* 表現の技法の使い分け
    - \* 文章の種類に応じた表現の仕方

## 思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 （知っていること・できることをどう使うか）

- ◆テキスト・情報を理解する力、文章や発話により表現する力
  - 【創造的思考(とそれを支える論理的思考)の側面】
  - 情報を多角的に精査し、構造化する力
    - \* 事実と意見の区別や情報と情報の関係性について、見出しや文頭の語句、接続語などを手掛かりに考え、内容や大まかな展開を捉える力
    - \* 目的に応じ、順序やまとまりを考えて情報を整理し、自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力
    - \* 情報の信頼性・妥当性、情報と情報の関係性等を根拠に基づいて検討し、内容や展開を解釈したりする力
    - \* 目的に応じ、伝達の効果を考え、情報を整理・構成し、自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力
    - \* テキスト(音声、文字、映像等を含む)の内容や展開、それらに含意された意味を、論理や既有知識に基づいて、吟味、補足、精緻化を行い、解釈する力
    - \* 情報の質と量に関し、情報の信頼性・妥当性や論理性、目的との整合性等を考察し、情報を整理・構造化して表現する力
  - 構成・表現形式に対して評価する力(※)
    - \* 構成・表現形式に対して、自分の考えをもつ力
    - \* 構成・表現形式を根拠をもって評価し、自分の表現に生かす力
    - \* 他の構成・表現形式と比較しながら、その妥当性や効果を評価する力、表現行為を行いながら、相手の反応や状況に応じてより良いものに改善する力
- 【感性・情緒の側面】
- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
  - \* 体験的・感覚的に言葉を捉えて感じたり想像したりする力
  - \* 自分の思いや感情をありのまま、言葉にする力
  - \* テキスト・情報に表された世界を、言葉の意味や文章の展開を手掛かりに、感じたり想像したりする力

## 学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）

- ・言葉のもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉がもつ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- ・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度(自分の感情をコントロールしようとする態度)
- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・我が国の言語文化に対する関心、及び、言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度
- ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに触れたりするなどして人生を豊かにしようとする態度



- \* 多様な文体の効果と使い分け
- \* 小論文等の書き方

など

- \* 自分の思いや感情を多様な表現の中から言葉を選び、思いや感情を明確にしたり深めたりする力
- \* テキストに含意された世界を、言葉の意味や感覚を手掛かりに、根拠をもって感じたり想像したりする力
- \* 自分の思いや感情を適切に言語化することで、思いや感情を明確にしたり、深めたり、望ましい方向にコントロールしたりする力

➢ 構成・表現形式に対して評価する力  
(※と同じ)

### 【他者とのコミュニケーションの側面】

➢ 言葉を通じて伝え合う力

- \* 自分の体験や感情を元に相手の心を想像する力
- \* 相手との関係性を理解し、相手の意図や内面を想像・推察する力
- \* 社会的な文脈において、相手との関係性を把握し、相手の意図や内面を想像・推察する力

など

➢ 構成・表現形式に対して評価する力  
(※と同じ)

### ◆ 考えを形成、深化する力(個人または集団として)

➢ 情報を編集・操作する力

- \* 対面する相手や具体的な目的に応じて、情報を選択する力
- \* 相手や目的に応じて、話題、題材などを設定し、情報を編集・操作する力
- \* 相手や目的に応じて、話題、題材、問題意識などを設定し、情報を編集・操作する力

など

➢ 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し、構造化する力

- \* 他者の思い・考えや新たな情報を、自分の思い・考えや既知の情報に照らして取り入れる力
- \* 社会生活における様々な情報を、既存の知識や経験・感情に基づいて解釈し、整理・構成する力
- \* 社会的文化的な背景を有する未知のテキストを、既存の知識や経験・感情に体系的に統合し、構造化する力

など

➢ 新しい問いを立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

- \* 考えたこと、分かったことを元に、更に確かめたいこと、調べたいことを意識化する力
- \* 考えたこと、分かったことを元に、新しい問いを立てたり、新たな発想や主張を形成したりする力
- \* 既成の概念と異なる新しい問いを立てたり、他者と異なる発想や主張を独自の論理や表現によって確立したりする力

## ○言葉の使い方に関する理解と使い分け

- ・話し方や話し方・発表  
(略)
- ・書き方  
(略)
- ・読み方や音読・朗読  
(略)

## ○書写に関する知識・技能

- \* 筆記具の持ち方、文字の形を整えて書く技能
- \* 文字の大きさや筆記具の特徴と選択
- \* 文字を正しく整えて速く書く技能
- \* 表現方法や伝達方法の効果と使い分け
- \* 様々な文章の目的に応じた文字の書体や配置
- \* 実用的な文章の目的に応じた、効果的な文字の書体や配置

## ○伝統的な言語文化に関する理解

- \* 文語調の文章の特徴
- \* 昔の人のものの見方や感じ方
- \* 短歌や俳句、ことわざ、慣用句、故事成語
- \* 代表的な古典作品の種類や特徴
- \* 現代につながる古典や芸能の特質や意義
- \* 現代につながる言語文化の特質や意義
- \* 代表的な古典作品とその歴史的背景
- \* 文語のきまり、訓読のきまり

## ○文章の種類に関する理解

(略)

## ○情報活用に関する知識・技能

- \* 索引の利用、目次や奥付の見方
- \* 学校図書館の意義、役割
- \* 学校図書館やWebサイト等における情報検索の仕方
- \* 様々なメディアの特性と使い分け
- \* 学校図書館やWebサイト等により収集した情報の真偽や適否の確認、編集の仕方

# 外国語ワーキンググループにおける検討について (平成28年1月12日現在)

## 言語力の育成方策について (報告書案) (平成19年8月16日言語力育成協力者会議配付資料)

### (1) 言語の果たす役割

- ①知的活動(特に思考や論理)の基盤、②感性・情緒の基盤、③他者とのコミュニケーション(対話や議論)の基盤

### (2) 指導の充実

- ◆言語力の育成については、国語科を中核としつつ、すべての教科等での言語の運用を通じて、論理的思考力をはじめとした種々の能力を育成するための道筋を明確にしていくことが必要。

#### ①知的活動に関すること

- ・事実を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える技能を伸ばすこと
- ・自らの考えを深めることで、解釈や説明、評価や論述をする力を伸ばすこと
- ・考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させる力を伸ばすこと

#### ②感性・情緒等に関すること

- ・感性や情緒は、他者との人間関係の中で育まれていくものであり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流は、人間関係を豊かなものに高めていくものであること

#### ③他者とのコミュニケーションに関すること

- ・個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど、お互いの考えを深めていくことが人々の共同生活を豊かなものにすること

- ◆発達の段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用と探究などについて認識や実践ができる水準が変化。それに応じて、指導内容や言語活動の特色付けをしていく必要がある。

### 次期学習指導要領において外国語教育を通じて求められる資質・能力の改善(イメージ)

学習指導要領において、③言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション(対話や議論等)の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、上記①、②の観点からも求められる資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、外国語教育を改善・充実

- ・・・身近で簡単な話題について友人に質問したり質問に答えたりする能力(小学校)
- ・・・互いの考えや気持ちなどを理解し、根拠を持って英語で伝え合う能力(中学校)
- ・・・幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力(高等学校)
- ・・・相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度(小学校)
- ・・・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度(中学校・高等学校) 等

思考力  
判断力  
表現力  
等

学びに  
向かう  
力、人  
間性等

**資質・能力の三つの柱に沿った、** 平成28年1月12日現在 別 添 2  
**小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）**

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
外国語活動 小学校	外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること 外国語を聞いたり、話したりすること 外国語への慣れ親しみ	簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力	外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など
外国語 小学校	聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 外国語を読んだり、書いたりすること 言葉の仕組みへの気付き（音、単語、語順など）	馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション能力	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など
外国語 中学校	聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 読むことに関する知識・技能 書くことに関する知識・技能 言語の働き、役割について理解 など	○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など
外国語 高等学校	聞くことに関する知識・技能 話すことに関する知識・技能 読むことに関する知識・技能 書くことに関する知識・技能 言語の働き、役割について理解 など	○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション能力	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度 言語や文化に対する関心 など

# 小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

2016年1月12日現在 取扱注意

## 英語教育の抜本的強化のイメージ

(秋以降、外国語WGにおいて専門的に検討予定)

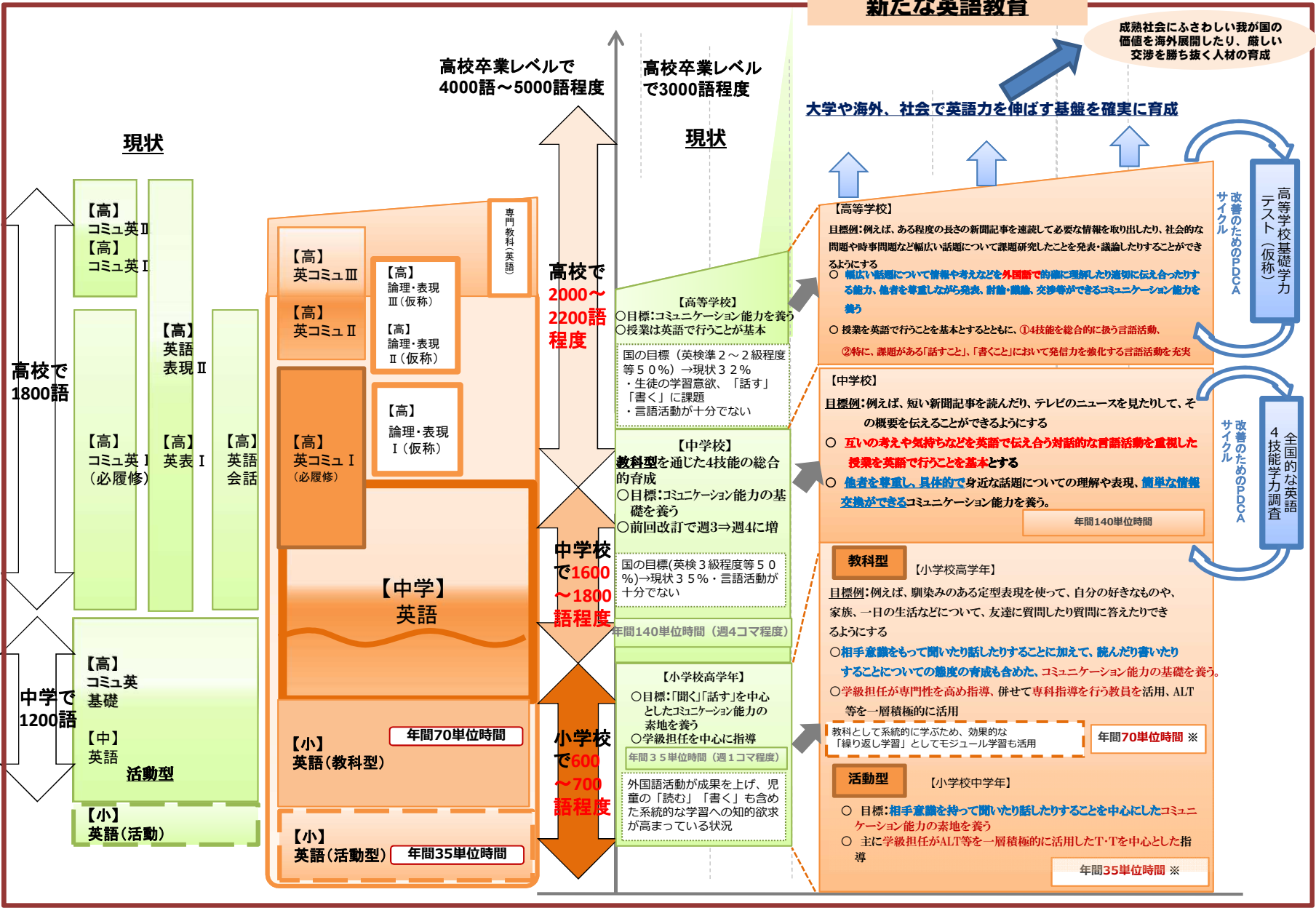
※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表。

中央教育審議会教育課程企画特別部会  
外国語ワーキンググループ  
平成28年1月12日 現在

改訂版(案)

※具体的な小学校の授業時数については、年内~年明けを目的に教育課程全体の構成とともに検討を進め、一定の方向性を提示

CEFR  
C1  
B2  
B1  
A2  
A1



# 外国語教育の目標と学習過程の全体像（案）イメージ

改訂版(案):1月12日現在

## 今後の方向性

次期学習指導要領では、小・中・高等学校を通じて①学校段階間の学びを円滑に接続し、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、一貫した教育目標(指標形式の目標)などを提示する方向で改善を図る。

各学校では、学習指導要領に基づき、技能ごとの学習到達目標を設定し、目標に沿った指導及び評価を一体的に実施

## 教科等の目標の改善・イメージ

	小学校中学年(活動型)	小学校高学年(教科型)	中学校	高等学校
教科等の目標	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声等に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う
外国語活動・英語の目標	○自分や身の回りのごく限られた話題 ・話し手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを話すこと	○身近で簡単な話題 ・話し手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを話すこと ○アルファベットの文字 ・アルファベットの文字を読むこと・書くこと	○具体的に身近な話題 ・話し手の意向などを理解すること「～できるようにする」 ・自分の考えなどを話すこと ・書き手の意向などを理解すること ・自分の考えなどを書くこと	(必修科目)・身近な話題・4技能の基礎的な能力・日常的話題、関心のある分野・情報や考えなどを的確に理解し、英語話者が理解できる程度の英語で適切に伝える (選択科目)・時事的話題や社会問題を含む幅広い話題・情報や考えなどを的確に理解し、英語話者が理解できる程度の英語である程度流暢に伝える
指標形式の目標	(例) 話すこと ・自分や身の回りのごく限られたことについて自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。 ・身の回りのごく限られたことについて、定型表現を使って質疑応答しようとするようにする。	(例) 話すこと ・身近で簡単なことについて自分の考えや気持ちなどを初歩的な英語やりとりできるようにする。 ・身近で簡単なことについて与えられたテーマについて初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。	(例)「話すこと」 ・日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。 ・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。	(例)「話すこと」 ・身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 ・身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ・時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに自分の意見を加えて話すことができるようにする。
英語の学習過程	○ 目的の設定・理解 簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。 ○ 目的達成のための活動・使用表現について理解したり練習したりする活動・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ※ペアワーク・グループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしに関わる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子供の遊び [コミュニケーションの働きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返り	○ 目的の設定・理解 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。 ○ 目的達成のための活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動アルファベットの文字や単語等の認識を深めたり、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動 ※ペアワーク・グループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面 挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内 ・児童の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び [コミュニケーションの働きの例] ・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返り	○ 目的の設定・理解 具体的に身近な話題の概要・要点を理解し、考えや気持ち等を伝えたり、簡単な情報交換をしたりする。 ○ 目的達成のための活動 ・言語材料について理解したり練習したりする活動 ・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ※具体的な場面にあった適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面で使ったり別の意味で活用したりするなどスパイラルに学ぶ ※ペアワークやグループワーク [言語の使用場面の例] ・特有の表現がよく使われる場面(挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話での応答) ・生徒の身近な暮らしにかかわる場面 家庭生活、学校での学習・活動、地域行事 [言語の働きの例] ・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す ○ まとめとふり返り ・言語面でのまとめと振り返り ・内容面でのまとめと振り返り	○ 目的の設定・理解 学校や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を理解し、情報や考えなどを伝えることができる ○ 目的達成のための活動 ・幅広い話題について情報や考えなどを的確に理解する活動 ・幅広い話題について発表、討論・議論、交渉などを行う活動 [コミュニケーション能力の設定] ・4技能の基礎的な能力(必修科目) ⇒ 的確に理解し、適切に伝える能力(必修科目及び選択科目) ・英語話者が理解できる程度の英語(必修科目) ⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ(選択科目) [話題の設定] 身近な話題及び日常的話題や関心のある分野(必修科目) ⇒ 時事的話題や社会問題など(選択科目) [情報や考えなどのやりとりに関する言語活動の設定] ・スピーチやプレゼンテーション等 ⇒ ディベートやディスカッション等 ※小・中学校で扱った語いや表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる 場面や文脈で活用できるようにするなど、スパイラルに学習する ※具体的な場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする ※ペアワークやグループワークを学習形態の基本とする ○ まとめとふり返り ・言語面でのまとめと振り返り(流暢さを重視したスピーキングの後で行う正確さをより重視したライティング(質的な高まり)など) ・内容面でのまとめと振り返り(得られた情報や考えの整理など)

# 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ） たたき台

改訂版(案)：1月12日現在

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
↑ 高等学校 ↑ 中学校 ↑ 小学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。</li> <li>○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解できるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。</li> <li>○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。</li> <li>○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。</li> <li>○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。</li> <li>○Eメール、エッセイ、レポートなどを、それぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。</li> </ul>
	B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共の場所（店、駅など）において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。</li> </ul>
	A2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。</li> <li>○身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。</li> </ul>
	A1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。</li> <li>○相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</li> </ul>
	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。</li> <li>○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。</li> <li>○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。</li> <li>○相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。</li> <li>○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的を持ってアルファベットの大字と小文字を活字で書くことができるようにする。</li> <li>○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。</li> </ul>

複数の技能を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council Of Europe）が発表。

## 小学校外国語教育の方向性

(「外国語WGにおける検討事項に関するこれまでの論点」(平成28年1月12日)「抜粋」)

(小学校高学年)

- 小学校高学年においては、これまでの成果・課題を踏まえ、
  - ・ 教科としての外国語教育のうち基礎的なものとして、中学年からの及び中学校への学びの連続性を持たせながら、これまでの体験的な「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」の4技能を扱う言語活動を通じて、より系統性を持たせた指導(教科型)を行う。その際、外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う体系的な指導を行う教科として位置付けるため、更に専門的に検討する。
  - ・ 教科として位置付ける際、単に中学校で学ぶ内容を小学校高学年に前倒しするのではなく、身近なことに関する基本的な表現による4技能の豊かな言語活動を行うため、発達段階に応じた「読むこと」、「書くこと」に慣れ親しみ、積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする態度の育成を含めた初歩的な運用能力を養うことが考えられる。
    - 例) 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや家族、一日の生活などについて、友達に質問したり、質問に答えたりすることができる。
  - ・ 文構造など言葉の規則性に関する気付きを意図的に促す指導や、文字の認識、単語への慣れも加えることで、発達段階に応じて、知的好奇心に応えるものとする。

例えば、

- ① アルファベットの文字や単語などの認識
- ② 国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き
- ③ 語順の違いなど文構造への気付き

等を促す指導を行う。